

蓬萊町だより

第 五 十 六 号
平 成 十 二 年 三 月 三 十 一 日 会 部
發 行 者 蓬 萊 文 化
編 集 者 編 集 者

蓬萊町界限（その五十） 戦前の小学校遠足

林 順 信

◆武蔵野一円に赴く

私が誠之小学校に入学したのが昭和十年の四月だった。あれから今春で六十五年の歳月が過ぎ去った。その間に日中戦争と第二次大戦を経験して、現在はいわゆる少子化の問題もあり、都内でも、下町を中心に、かつての名門校が二つ三つ合併して、日本橋小学校だとか、神田小学校だとか、まるで旧十五区の区名そのままの小学校が出来て而食らってしまう。

卒業して何十年もたつと、かえって小学校の同級生の寄り合いがこのところ増えている。歳をとると子供の頃に帰るといふが、旧友のほとんどは引退をして、暇は十分すぎるほどあるし、たいして責任のある仕事もしていないから、気がおけない仲なのでいい。

同級生仲間、昔の小学生時代の思い出

ばなしに花を咲かせることが多いが、その中で春と秋の遠足のことになると、一年生から六年生まで、一体全体どこへいつ行ったのかがなかなか解らない。

現代の子の遠足は、学校から貸切の高級バスに乗って、毎回々々ちゃんとした写真班も同行しているから、卒業アルバムを見れば、六年間の遠足については写真と共に、完全に記録されているから一日瞭然だ。

友人の記憶と私の記憶とから誠之小学校の昭和十年頃の遠足一覽をつくってみた。

春 秋

- 一年生 小石川植物園 上野動物園
- 二年生 芝増上寺東京港 飛鳥山
- 三年生 聖蹟桜ヶ丘 井の頭公園
- 四年生 村山貯水池 大宮氷川神社
- 五年生 高尾山 飯能入間川
- 六年生 聖地巡拝関西旅行 (大運動会に代る)

生の村山貯水池、五年生の高尾山などはそうだったが、年によって多少の入れ替えはあった。三年生の豊島園とか市川鴻の台、四年生の福田登戸などが候補地として選ばれることもあったらしい。

◆便利すぎない方がいい

遅ればせながら世界の仲間入りを果たした明治政府のもと、文部省の三大スローガンは、知育、徳育、体育の涵養にあった。古いところでは、明治八年（一八七五年）に栃木県矢坂市の泉小学校で、四十人が寺山観音に参詣した。また明治十七年（一八八四年）に高知市内の全小学校が連合して、桂浜まで歩いて、舟遊びをしたという記録がある。それらは小学生の健全な身体育成を目的としたものだった。その翌年には、福岡県行橋市の豊津中学校では「遠足会」という名称のものを作った。その規則書にはこう出ている。「第一、実地に就き、學術上、研究をなし、精神を活発ならしめ、身体を養生し、各自生徒の親睦を計るを目的とす。」私の場合は、小石川植物園も上野動物園も、誠之小学校に集合して、学校から徒歩で目的地に赴いたものだった。

二年生の芝増上寺東京港のときは、白山下の電停指ヶ谷町から、貸切の東京市電に

乗って、芝公園で下車した。当時の芝公園は、電車道の両側に老松が緑濃く影を落とし、低い草むらが一面にあって、そこに座って昼食を取った。昼食は各自が自宅から持参して行ったもので、飲物は各自の水筒の水だけだった。芝増上寺へお詣りしたあとは、まだ築港後、日の浅い東京港まで歩き、当時では珍しい可動橋の設備を見学したのが今でも印象に残っている。飛鳥山のときも、本郷追分町から市電の貸切で行ったと思うが、はっきり覚えていない。二年生以降の場合は、聖蹟桜ヶ丘は京王電車の始発駅（現在と異って、新宿御苑から新宿追分にかけての不二家菓子店の並びに、櫛形の大屋根の下にあった）の前まで、各自電車に乗って集合した。当時の市電は午前七時までは早朝割引という切符があって、片道七銭のところを、往復で九銭として、五銭の割引となっていた。切符は三分の一の小さい方が切り落とせるようになっていて「ゆき」と印刷されており、無くさないように「かへり」の方は三分の二と大きく出来ていた。

四年生の村山貯水池のときは、市電で駒込駅まで行き、駒込から高田馬場駅まで山手線で行った。こうした場合も、近所の友だちと誘い合わせて二、三人で行くか、白

分ひとりで出かけた。小学三、四年生のときから、そうしたときに、市電の電車網のこと、省線のことなどを調べたり、人に教わって行くことによつて、市内交通のエッセンシャル、ミニマムを身に付けることとなったことも遠足のおかげだと思った。

五月の村山貯水池周辺には、赤松がたくさんあり、ハルゼミがものうい声で「じーいじーい」と鳴いていた。このハルゼミは、その後の関西旅行のときにも伊勢神宮の森で鳴いていたが、その姿はめつたに下からは眺められないので、従つてつかまえることも出来なかった。

五年生の春は、浅川駅で中央線を捨て、高尾山頂上まで歩いて登った。たくさんの鳥の合唱のこだまする森林にリスやサルが遊んでいる姿が印象的だった。帰りはケールで下山したように思う。

秋の飯能入間川は、当時としてはなかなか凝ったプランだった。飯能はその頃武蔵野の山深くの都邑で、石炭になる前の炭化現象で、燃料としては薪と石炭との中間という位置づけの亜炭（あたん）というものを発掘する坑口を見学した。その後昼食を取った入間川の河原には、砂利が一面に敷き詰められていて東京市内では絶対に見られない、ブルーの空色の羽を持ったカワラ

バッタが群生していて、学帽で把つたものだった。

私どもが小学六年生の昭和十五年頃は、皇紀二千六百年ということで、日中戦争たけなわ、国を挙げての大祝典が十一月に東京の皇居を中心に催された年で、その五月に聖地巡拝の関西旅行が、四泊五日という修学旅行として行われた。この年の秋には遠足も旅行もなく、祝賀大運動会が、六義園の運動場で盛大に行われた。

四泊五日といつても行きと帰りは東京駅から京都駅からの夜行列車での二泊で、途中は宇治山田（現在の伊勢市）の中村屋旅館と奈良市の猿沢池のほとりの旅館（名前は忘れた）の二泊だった。この旅行は、伊勢神宮、二見浦、橿原神宮、奈良市内見物、桃山御陵参拝と京都市内見物の行程だった。

この修学旅行の道中を、一卷の和紙に絵と文章でつづり「聖地巡礼絵巻」としたものを各自が製作して学校に提出した。その控えは今日も、私の抽出しの奥深く保存してあるが、小学六年生の作品とは思えないほどの出来ばえだったと、自分ながら感心する。時たま眺めては今日の励ましとしている。

「餅つきべったんこ」

実行委員 中島行雄

天候不良の為、一週間延期をして行われた二月二十七日(日)の「餅つき大会」は、朝から穏やかな晴天に恵まれ、町内の皆さんに多数ご参加をいただき、四年ぶりの賑わいを見せました。

餅つきの掛け声の響く中、今回新たに加わった大きな鉄板を用いての「焼そば」も好評をいただき、材料を追加する程の盛況ぶりでした。

つきたてのお餅を食べながら、大人も子供もなたほっこ気分で和気あいあいと、楽しい時を過ごせたのでは……と思います。

今回、餅つきの「つき手」を体験された方、いかがでしたでしょうか？次回は餅つき初めての方もぜひ一つ、話の種に挑戦してみてください。

本当に「餅つき日和」と皆さんのご協力、ご参加に恵まれ、なによりでした。



町会活動の概要

平成十一年十一月から

十二年二月下旬まで

総務部

- 11/7 向ヶ丘地区町会連合会 地域活動
ミニ運動会・ゲーム大会
町会長以下十一名参加
- 11/12 定例役員会 常務寺会館
- 12/11 定例役員会 年末懇親会 藍屋
出席二十二名
- 12/16 向ヶ丘地区町会長会 向ヶ丘出張所
- 12/23、29 歳末夜警実施
- 1/1 根津神社鏡開き
- 1/13 文京区町会連合会 新年会
- 1/24 向ヶ丘地区町会長会 かねこ
町会長、小川副会長、出席
- 1/29 蓬菜友の会 新年会 魚那

防犯部

- 1/22 防犯、防災、歳末夜警反省会
常盤寺 十六名出席
- 1/25 駒込防犯協会新年会 東天紅

婦人部

- 11/9 火災予防活動協力者として川西前婦人部長、藤間副部長、本郷消防署より表彰を受ける
- 11/18 資源回収
- 12/1、10 歳末助け合い募金
285件、¥210、200
- 12/8 定例会の後の、懇親会
- 12/9 根津、向ヶ丘地区、ごみ問題懇親会
- 12/16 資源回収
- 1/2 資源回収
- 1/22 くすの木の郷、日本赤十字社、洗濯物たたみ奉仕活動
- 2/13 文京つっじ会婦人部会

交通部

- 11/26 駒込交通安全協会理事会
本城部長 出席
- 12/1、3 交通街頭指導 かねこ前
- 1/7 駒込交通安全協会 新年会
弥生会館
- 1/12 駒込警察武道始式 坂本出席

文化部

- 12/15 「蓬菜たより」五十五号発行
- 1/10 本年当町会員中左記の方々成人式

を迎えられました

町会から心ばかりのお祝い品をお届
けしました

室谷祐子様 佐藤山佳様
小林由香里様 村上竜二様
金山裕樹様 山澤賢幸様
五十嵐誠様 常岡聡史様
山本快太様 杉山和己様
桑田知章様

防災部

1/26 防火協会新年会 並に本郷消防署長
歡送迎会 弥生会館 大畑出席

青年部

12/6 地区対策委員会 中島出席

計報

当町会の方で十二年十二月より十二年一月に
ご逝去された方は左記の通りです
謹んでご冥福をお祈りいたします

浜田ヨシエ様 九十三才 二二、四一十
横山早苗子様 七十七才 二二、三三一
半沢サイ様 八十九才 二二、五一二
萩原太一様 六十一才 二二、七二六

蓬萊句壇

青木浦寿
人見知りようやく馴れて初笑
岡田栄子
軒先に萎れて揺れる下葉かな

彦坂つぐを
鯉鈍坂芋洗坂日脚仲ぶ

広沢しほり
床の間の市松人形日脚仲ぶ

福山七重
バスを待つ童女あやとる冬の午後

船橋小糸
雀どちまだ遊びをり日脚仲ぶ

森ゆかり
日のあたる部屋母の部屋日脚仲ぶ

金子卿雨
「元日もホテル勤めよ」寡夫笑う

津久井たかを
退社ベル仲びし日脚をしらせけり

小野向雪
重ね着のまゝ、洞ふる薺爪（なづなつめ）

池田連木
リハビリの友に喜色や日脚仲ぶ

編集後記

昨年より色々取り沙汰された西暦二千
年問題も、心配された程の事故も無く新世
紀を迎えました。皇紀で言えば二千六百六
十年になります。ところが、この頃市販さ
れている「暦」にはこの日本暦の記載があ
りません。戦後、紀元節が建国の日として
祝日となりました。にも拘らず皇紀表示は
社会から見捨てられた様です。その是非は
別として、「西暦」ばかりが風靡する傾向も
余り誉められたものでもありません。今か
ら六十年前、昭和十五年には、皇紀二千六
百年を祝う全国的な行事が華やかに催され
ました。当時の事を覚えて居られる方も少
なくなつた事でしょう。

編集委員

三宅英三 竹中俊之 常岡 裕
青木喜一 池田 暉